

2017年度 ATJ体験記

氏名： H. Y.

卒業年月： 2017年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Melton Secondary College

ATJの期間： 2017年4月16日～2018年3月29日（更新:無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

・在学中の留学がきっかけで日本語の先生になりたいと思っていたので、大学で日本語教育を副専攻し、さらにヒューマンアカデミーの養成講座にも通っていました。

・毎週土曜日の朝に伏見青少年活動センターの日本語教室でボランティアをしていました。また、AKP同志社留学センターのボランティアにも参加させていただいていました。オーストラリアに行くと、高校生と会話練習をする機会があると思います。ボランティアに参加すると、学習者さんとどう話せばいいのかがよく分かります。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

・10月、ATJに参加させていただけることが決まってすぐに東京からメルボルンまで直通の飛行機をExpediaで取りました。

・1月に入ってからまず東京海上日動の海外旅行保険に申し込み、ビザの申請を始めましたが、最大3か月かかると聞いていたので出発までに降りるかどきどきしました。できれば12月までに申請しておいたほうが良いと思います。

③ ATJとして経験した具体的業務

4月～12月

・高校3年生と会話練習

高校3年生は何度かスピーキングテストがあるので、授業中に決められたトピックで会話の練習相手になりました。

・中学3年生の授業のアシスト

オーストラリア人の先生が担当されていたので、教科書に載っていない漢字や日本の文化に関する質問に答えました。

1月～3月

・高校1年生と2年生の合同授業のアシスト

高校1年生と2年生は同じ時間同じ教室で1人の先生が担当されていたので、先生が片方

を教えておられる時に、もう片方のグループの質問に答えたりしました。2年生の方は2人しかいなかったのですが、その子たちに私が直接文法などを教える機会も多かったです。

- ・中学3年生の先生のサポート

2018年1月から新しくこの学校に来られた先生だったので、少しでも生徒のことを知っている私が授業と一緒に行って、主に日本語が少し弱い子の傍についてサポートをしました。

- ・その他にも時間割が許す限り全てのクラスに行って、あまり授業内容が理解できていない子に一对一でワークの手伝いをしました。また、転入してきて日本語を全く知らない状態でクラスに来た子に一对一でひらがなから教えることもありました。事前に知らされずに急に来ることもあるので、臨機応変に対応する力が要りました。

④ ATJ以外の活動

- ・7月から2週間ある冬休みの間に、メルボルンにある語学学校に通いました。限られた時間だったので友達を作るのに必死でした。その結果色々な国の友達ができ一緒に遊ぶ仲間になれたので、お金はかかりましたが行ってよかったです。

- ・10月からメルボルン市内の Melbourne City Bath というジムの水泳教室に通い始めました。せっかくオーストラリアに来たからシュノーケルをしてみたいと思ったのがきっかけで、10年ぶりくらいに水着を買うところから始まり、25mクロールができるようになりました。

⑤ ホームステイ

- ・4月から7月まではサイエンスの先生のお家にホームステイをさせていただきました。若いカップルのお家で、たまの土日に動物園やフットボール、知り合いのパーティーにも連れて行ってくださった反面、きちんと大人としても扱っていただきました。新興住宅街だったのでお家の周りは歩いて行ける範囲には何もなく、駅に行くバスは1時間に1本だけでした。学生の時のホームステイとは違うので洗濯や掃除は自分でしました。2週間に1回くらい、晩ご飯も作りました。

- ・7月から2週間、冬休みの間はシティのアパートに住みました。アパートの一室を見知らぬ日本人3人とシェアしていましたが、古くて狭くて汚い家で、毎朝ゴキブリを見たり布団も痒くて夜は寝られませんでした。シティに住む時はきちんと下見をして決めたほうがいいです。

- ・7月後半から帰国までは学校の近くのお家でシェアハウスをしました。オーナーはインド人のご家族で、そのお家の中の一室に住まわせていただきました。シェアハウスなのでご飯は自分で作りますが食費が特別出るわけではないですし、休日はどこかに連れて行く

てもらえるわけではありません。でも慣れてきて自立して暮らしたい場合はいいと思います。親切なご家庭だったのでたまにカレーを分けてくださいました。手作りのナンとチャイは恋しくなると思います。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

・健康面

一年中乾燥しているのでアトピーがひどくなるが多かったです。病院でもらった薬を持って行っていたのでなんとか生き残れました。こちらではヒルドイドやザイザルは薬局でも普通に買えるので、こちらで買っていました。Cetaphil というボディークリームがいいと聞いたので、一番大きいのを何本も使いました。

・治安面

日が落ちてからは絶対に 1 人で外を歩いてはだめです。私が住んでいた地域を含めシティから西側は特に土地が安くて窃盗や暴漢が多いと言われています。シティで遊んで夜が遅くなりそうな日はシティのホテルに泊まりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

・冬休み(7月・2週間)

シティに住んで語学学校に通いました。学校の先生に相談してエージェントを紹介していただきました。

・春休み(10月・2週間)

ウルルに行きました。3泊4日のパッケージツアーで、同じオーストラリアですがビクトリア州とは全く違う景色に感動しました。みんなでキャンプをして星空の下で寝たのは忘れられない思い出です。ツアーで友達になった中国人の人たちとは今でも連絡を取り合っていて、シドニーを案内してもらうこともできました。今度は私が日本を案内する予定です。

・夏休み(12月1月・1ヶ月半)

年末年始は1週間のパッケージツアーでタスマニアに行きました。ビーチが加工写真のようにきれいだったのが忘れられません。オーストラリアの中で一番おすすめです。年が明けてからは母と妹と一緒にケアンズとゴールドコーストに行きました。ケアンズではグレートバリアリーフの上で2泊3日のシュノーケルツアー、ゴールドコーストではグリーンマウンテンが印象的でした。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一年を通してあまり大きなイベントはありませんでしたが、ずっと先生と生徒たちの間に立つ潤滑油になればいいと思っていたので、スピーキングテスト前に不安になっていた生徒を励ましたりして笑顔を見せてくれた時は嬉しかったです。

正規の先生がお休みの時は代わりに前に立って話すこともありました。その時の授業がスムーズに進んで次の授業の時に習ったことを覚えていてくれた時はほっとしました。

年末のライティングテストはクリスマスカードを書くことだったのですが、私宛に書いてくれた子もいました。大事にとっています。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

時々うまくいくこともあったのですが、正規の先生がお休みの時はだいたいクラスが荒れました。なめられているのだなと分かって落ち込みましたが、あの生徒たちをコントロールするのは難しいです。許していいことだめなことの線引きをしっかりとしないといけなそうかと思いました。分からないとすぐに諦めてしまう子が多かったので、機嫌を損ねないようかつうまくモチベーションを持ってもらうように立ち回ることに気疲れしてしまいました。だいたいうまくいかないことの方が多かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私の学校では、家庭環境が良くない子が多かったです。文化的な理由もあるかとは思いますが、時々お家のストレスを授業の邪魔をすることで発散して問題になっている子もいました。

III. ATJ参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

・パソコンは学校で毎日使います。体験記を書く時も使います。就活をする時も使います。絶対に持って行った方がいいです。

・ドラえもん、トトロ、リラックマのスタンプを持って行きました。中高生でも意外と喜んでくれます。

・100均で買えるような小さい日本風の文房具は、先生同士でクリスマスプレゼントの交換をする時に役に立ちました。ダイソーはこちらにあるので、セリアの方がいいです。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

周りの同級生よりも社会に出るのが遅れるので、帰国後きちんと就職できるのか悩んでいる人も多いかと思います。私も出発前は両親にも心配されましたし、祖母は今でも小言

を言ってくるそうです。私自身も就活から逃げてきたのではないかというコンプレックスを感じることもありました。3回生の頃は企業への就職はしたくないと思っていましたが、一年間オーストラリアで色々な生き方をしている人を見て、就活をしようという心の準備ができました。アシスタントを派遣するエージェントは他にもありますが、ATJほど待遇のいいところは少ないです。1年2年くらい回り道をしてみてもいいと思います。

IV. 進路

① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）

卒業から2年以内は新卒と区分してもらえるみたいなので、2学年下の人たちと同じように企業にエントリーをし始めました。

② 将来の夢

まずは企業に入るつもりでいますが、ヒューマンアカデミーの日本語教師養成講座を終える前にオーストラリアに行ってしまったので、それが終わったら日本語の先生になることを考えようと思っています。

2017年度 ATJ体験記

氏名： A. Y.

卒業年月： 2017年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部・英語英文学科

派遣先学校名： Sale Primary School

ATJの期間： 2017年4月17日 ~ 2017年12月22日 (更新: 無)

I. ATJレポート

② ATJとして経験した具体的業務

小学校でPrep (0年生) ~ 6年生まで、毎週1時間の授業の補助をしました。

低学年の授業では絵本の読み聞かせや行事についての紹介とその行事に関するアクティビティの補助、歌と一緒に歌うことなどのほかに、体を動かすことも多かったです。高学年ではひらがなを習い、自分1人でのアクティビティも増えたので、机間支援することが多かったです。全学年調理実習も行いました。3、4年生とは日本語でのミュージカルに取り組んだので、その際のセリフや歌詞の指導を担当しました。授業前と授業後は机の整理やプリントや教材作りをしていました。姉妹校とのスカイプ交流の準備や司会等も行いました。

④ ATJ以外の活動

学校行事 (キャンプや遠足、卒業式など) への参加をしたり、学校の先生と出かけたり、ホストファミリーと過ごしたりしていました。ホストマザーがガールガイドをしていたので、週1回一緒に行ったりもしました。土曜日朝には毎週行われる Parkrun にも参加していました。その他、日本語や日本文化に興味がある生徒の家に行き、日本についての紹介をしたり、あいさつを少し教えたりもしました。

⑤ ホームステイ

タームごとにホストファミリーが変わることになっていたため、学校に子どもが通っている3つの家族と過ごしました。どの家庭でもとても楽しく過ごしました。運動が好きな家族が多かったので、一緒にジムに行ったり、子どもたちの誕生日パーティーに参加したりしました。食事は用事があるとき以外は一緒に取り、食後も一緒にテレビや映画を見たり、ボードゲームをしたりして過ごしていました。オーストラリアの文化などについてもよく教えてくれました。週末にはおすすめの場所に連れて行ってくれたり、旅行にも一緒に行ったりしました。セールは田舎で他のATJと会う機会は少ないかもしれませんが、ホストファミリーとたくさん過ごせてよかったと思っています。タームごとに変わってし

まうのは寂しかったですが、ホストファミリーが変わってからも学校で話をしたり、泊まりに行ったりと交流できたので嬉しかったです。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

日本とは違ってよく風邪をひきました。常備薬等は多めに持ってきたほうが良いと思います。治安は良いと思いますが、バスやトラムは無いです。お店も閉まるのが早く、すぐ真っ暗になるので、夜は車で移動したほうが良いと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

オーストラリアのいろいろなところに行ってみたかったので、毎回長期休暇には旅行に行きました。日本から来た友達、他のATJ参加者、家族と一緒にいたり、一人で行ったりすることもありました。旅行のほかには、学校の先生とフットボールやショーに行きました。ホストファミリーとゆっくり過ごす日もありました。

II. ATJの感想

①最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

3、4年生と取り組んだ一寸法師のミュージカルです。全3公演みんなで楽しく行うことができました。大変でしたが、歌やセリフもどんどん上手になっていき、本番笑顔で演じているこどもたちの姿を見ることができてよかったです。その後、3、4年生と2泊3日のキャンプに行けたのも良い思い出になりました。

III. ATJ参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持参しました。カードをよくもらい（Thank you、Birthday カードなど）、自分も渡すことが多かったのですが、その際、和柄のグリーティングカードや日本のキャラクターのカードを渡すと喜んでもらえました。

IV. 進路

② 将来の夢

日本で英語教員を目指しています。

2017年度 ATJ体験記

氏名： A. M.

卒業年月： 2017年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Bayside P-12 College

ATJの期間： 2017年4月17日 ~ 2018年3月29日（更新： 無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

ATJのための英語の勉強は特にはしませんでした。日本語に関しては、日本語副専攻で学んだことの復習と、海外からみる日本文化の認識などについてインターネットで調べるなど、日本語教師として役に立ちそうな情報の収集を気休め程度に少ししていました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航手続きは、同じ学校に行かれた先輩お二人に色々お聞きし、たくさん助けていただきました。また、同じ代の参加者と情報を共有してひとつずつクリアしていきました。私は本当にゆっくりと申請準備をしていたので、ぎりぎりになってとても焦っていました。早めに準備を始めることをおすすめします。

③ ATJとして経験した具体的業務

VCEの授業では、例文・例題の提供、リスニング教材のレコーディング、定期試験の添削や評価をしました。授業外で12年生との一対一の会話練習もしました。7から9年生の授業では主に机間支援をしていました。プライマリーの授業では、ゲームや歌で誰よりも頑張ってもらって生徒の学習意欲を促進したり、アクティビティやゲームの提案、折り紙体験、補助教材の作成をしたりしました。姉妹校来校時には、市内観光や動物園への引率など全てのプログラムに参加させていただき、案内や通訳などをしました。その他、パワーポイントの作成、文法や漢字の教材作成、餃子の調理実習や書道体験、遠足の引率などをしました。先生方から仕事を与えられるというより、こちらからやりたいことを伝えることが多かったです。特に、千羽鶴チャレンジは、とてもやりがいがありました。

④ ATJ以外の活動

日本語とは関係のない、9月の演劇発表会に向けての放課後練習に顔を出していました。学校がシティに近く、最初の4か月以降はシティでシェアハウスに住んでいたため、できることはたくさんありました。このありがたい環境を最大限に活かすために、友達と遊ぶ

だけでなく、英会話教室に参加したり、ヨガに通ったり、知り合いの他校の小学校でもボランティアをさせてもらったりと積極的に色々なことに挑戦しました。

⑤ ホームステイ

9月までは、家庭科の女の先生のお家でホームステイをさせていただきました。初めての海外生活で分からないこと、困ることだらけでしたが、この先生のおかげで安心してメルボルン生活を始めることができました。しかし、一人暮らしや自立した生活に慣れていた私は、一年間でやりたいこともたくさんあり、シェアハウスでの生活を希望しました。学校側がホームステイ先を見つけるのが難しかったということもあります。シェアハウスは自分で探しました。アパートメントの一室を何人かでシェアする形でしたが、たくさんの友達に出会え、本当にいい思い出がたくさんできました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

メルボルンの天候は気まぐれです。冬は想像以上に寒く風が強く、夏は一日の中で気温差が15度あったり急に雨が降ったりします。天気で気持ちも体調も左右される私にとってはきついものがありました。いつでも体温調整ができるような服装を持ち歩くことと、少しでも体調が悪ければ病院に行くことをおすすめします。そのための保険に入っているので。治安はいい方だと思います。しかし、恐ろしいニュースも少なくありません。日本とは完全に違うということを忘れず、夜は特に気を付けてください。

⑦ 長期休暇の過ごし方

A T Jの友達や日本からの友達、家族と別の都市に旅行に行きました。また、短期で小さな語学学校に行ったり、プログラムの友達やシェアメイトとメルボルンでのフェスティバルや様々なイベントに行ったりして遊びました。メルボルンはイベントがたくさんあるので楽しいです。

II. A T Jの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

最も楽しかったことは、姉妹校の来校です。全校集会、授業見学、遠足、食事会など、全てのプログラムに参加させていただけたということが理由のひとつではありますが、何より、両校の生徒や先生方にいつも以上に頼りにされている感覚があり、やりがいがあったということが最大の理由です。みんなが笑顔になれる場がたくさんあり、誰にとっても一度きりの貴重な経験になったと思います。最も思い出に残っていることは、12年生の卒業式です。一番長く濃い時間を過ごした12年生6人を見送る時は、色々な思いがこみ上げ涙してしまいました。自分が彼らに与えられたものよりも、彼らが私に与えてくれた

ものの方が大きい気がします。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

つらかったことは、英語に自信がもてなかったことです。英語ができなかったことというよりも、自信がもてなかったことによる行動力の欠如です。最初は、ネイティブの英語環境にさらされて、言いたいことがあっても英語を話すことが怖くて言えず、また生徒が言っていることが分からず落ち込んだりもしました。今考えると、もっと気楽に楽しめばよかったなと思います。苦勞したことは、VCEで求められる日本語を理解することです。先生が今年初めてVCEを担当するというのもあって、試験で求められていることの全容が長い間分からずにいました。そのため、先生、アシスタント、生徒みんなが手探りの状態で勉強をすすめていて、大変苦勞していました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

初めての海外長期生活ということもあり、最初の数か月は、学校、生活環境、人へのカルチャーショックがたくさんありました。まず、学校の子どもたちの傾向、学校方針や習慣が日本と全く違います。基本的に何事もゆっくりしていて、自由がたくさんあります。子どもたちは落ち着きがなく、逆に言えば発言をよくするしフレンドリーです。それらに対して思うところはたくさんあると思いますが、それを受け入れ適応することがはやく楽しむコツです。私生活では、電車をよく使うことがありましたが、必ずといっていいほど遅れます。

Ⅲ. ATJ参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは日本から持って行きましたが、古くて重いため、新しいのに買い換えたらよかったですと個人的に思いました。ただ、私の学校には私が見えるパソコンがないため、必須でした。授業やプレゼントに使いたいと思って持ってきたものは全て使い、全て生徒に喜ばれました。チラシやパンフレット、スタンプやシール、日本のおもちゃなどです。特に、日本のおもちゃは、プライマリーの生徒たちに大人気でした。姉妹校の生徒が来校した際も日本のおもちゃを通してアイスブレイクできたと思います。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

アシスタントをしながらの一年間は、その人次第で密度も満足度も変わってくると思います。他のメンバーと近況報告をすると分かると思いますが、同じプログラムに属していても、学校も先生も生徒も違えば、住む場所も家も違い、もちろん活動内容や環境も全く違います。そんな中で、色々なことに一喜一憂しながら自分の置かれた環境を、人と比べ

ることなく精一杯楽しむことが大切だと思います。自分が楽しまないと生徒に楽しんでも
られません。それぞれのペースで自分らしく、この素晴らしい学校での生活を満喫してい
ただきたいです。

IV. 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

帰国後は、インターナショナルスクールの教師になるための就職活動をするつもりです。

② 将来の夢

様々な形で教育に携わりたいです。大学院にも行ってみたいですし、英語を使いこなして日本語教師になることも視野に入れていきます。このプログラムのおかげで、視野が広がり、夢がたくさんになりました。

2017年度 ATJ体験記

氏名： M. A.

卒業年月： 2017年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Warrnambool Primary School

ATJの期間： 2017年5月13日 ~ 2018年3月29日（更新： 無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語学習に関して、事前に必死に勉強することはなかったのですが、オンライン英会話で英語を話す練習をしていました。日本語教師のアシスタントとはいえ、他の学校の先生やホストファミリーとたくさん英語でコミュニケーション取ることになるので、しっかり勉強してくるのに越したことはないと思います。このプログラムのためには、話す練習、聞く練習を中心に英語学習ができれば理想だと思います。日本語に関わる学習として、私は日本語教師の方が書いた本を何冊か読んで行きました。大学で日本語教育の授業を受けたことがなく未知の世界だったのですが、その本を読んで、海外の方がどんな風にして日本語を学んでいるのか、日本のどんな文化が人気かなど、予備知識を得ることができました。もちろん、小中高校生の日本語学習と、大人の学習では大きく違いますが、興味がある方は日本語教育の本や、日本の歴史や文化にまつわる本を読んでおく役に立つかもしれません。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

私は、追加募集の応募で2月にプログラム参加が決まりました。その後急いでビザを申請したのですが、他のメンバーよりも1ヶ月遅れで5月に勤務を始めることになりました。私たちが申請するビザは取得するのにすごく時間がかかるので（2ヶ月以上かかることがほとんどです。）早めに準備することをおすすめします。

ビザ取得後は、航空券を取るかと思いますが、当日の搭乗チケットは残しておく方がいいです。私がオーストラリアに来て銀行を開設するときに、入国時期の証拠として飛行機の搭乗チケットが必要になることがありました。銀行によってシステムが異なると思いますが、私はチケットをすでに破棄していて大変だったので、取っておくと安心です。そして出発前には、勤務する学校の先生と、ビザ申請などのお世話をしてくれる方、この二人とたくさんメールでのやりとりがあると思います。ビザを申請したときや、取得したときに随時連絡を送ること、送られたメールには早めに返事をするを心掛けておくと思います。

③ A T Jとして経験した具体的業務

私の学校(Warrnambool Primary School)でのスケジュール、業務内容はこのようになっています。

8時40分	登校、授業の準備
9時00分	一時間目
10時00分	二時間目
11時00分	リセスタイム(生徒がスナックやフルーツを食べる休み時間です)
11時30分	三時間目
12時30分	四時間目
13時30分	ランチタイム
14時20分	五時間目

登校後一番に教室の椅子を下ろし、鉛筆を削り、授業の教材の準備やコピーをします。授業中は出欠確認や日本語の発音のお手伝い、書道のデモンストレーション、生徒指導などなんでもお手伝いします。週に3時間だけプランニングタイムという授業の準備の時間があるのですが、そのときは日本語の先生とたくさん授業のアイデアを出し合います。教材を作ることも大事な仕事です。リセスタイム、ランチタイムは、基本的には自由な時間ですが、前の授業の片付け、次の準備でばたばたすることがよくあります。放課後は次の日の授業の準備やその他先生のお手伝いをして帰ります。日によってバラバラですが、いつもは4時頃までには下校しています。忙しい時は6時まで残って作業をすることが数日ありましたが、あくまでアシスタントなので早く帰りたいと申し出ればすぐに返してくれるので大丈夫です。

④ A T J以外の活動

学校外での活動は、私は近くのジムに通ったり、ステイ中の家族に日本食を振る舞ったり、子供と遊んだりしています。一日の終わりにジムで運動するのは、私にとってストレス発散になります。日本食を作ると自分も美味しく食べられるし、家族にも喜んでもらえるのでおすすめです(喜んでもらえない料理もありましたが)。ステイ先に子供がいる場合はボードゲームなどをして遊ぶ時間も多くなるかもしれません。

⑤ ホームステイ

私は二つの家庭にお世話になりました。年によっては4つの家庭にお世話になることもあるようで(1学期ごと)、引っ越しを何回もしなければならず、あまり物は増やせないかもしれません。私はホストファミリーにとっても恵まれました。二家族とも本当の家族のようにとっても良くしてくれました。もちろん日常で気を遣うことはありますし、合う所合わ

ない所もありますが、家族と話せば話すほど距離が近くなっていくように感じています。限られた時間の中で少しでも多く家族と過ごせるといいなと思います。もちろん、一人での穏やかな時間も大切なので、バランスがすごく大事になると思います。しかし、場合によっては、ホストファミリーと根本的に合わず、一緒に過ごす時間がストレスで耐えられない場合もあるかと思います。辛い時は日本語の先生になんでもすぐ相談してください。必ず何かしらの対処をしてもらえます。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

健康面で気を付けることは、私の中では日本にいるときとほぼ同じです。バランスの良い食事を取る、しっかり寝る、適度な運動、手洗いうがいです。特に手洗いうがいは大切かもしれません。(生徒から何度か風邪をもらってしまいました。)しかし、実際によっては日本にいるときと環境も大きく変わり、食事内容も変わり、たくさんの生徒と毎日全力で過ごしていると、体調もいつもより崩しやすくなるかもしれません。学校は忙しい日も多いので、休息を取りながら自分の体を労って過ごしてほしいと思います。精神的にも、悩み事を溜め込まず、同じA T Jの友達に相談したり、仲良くなった先生と話したりして、毎日を元気に過ごせたら素晴らしいです。過去を気にせず、未来を心配せず、今を一生懸命生きるだけ、が私のモットーです。

私が住んでいる街で治安面を心配することはあまりなかったですが、旅行中などは夜遅くに一人で出歩いたりすることは控えた方がいいかもしれません。

⑦ 長期休暇の過ごし方

2週間のお休みが二回、6週間のクリスマスホリデーが一回ありました。私は2週間のお休みでオーストラリアの色々な所に旅行にいきました。メルボルン、ケアンズ、ダーウィン、サンシャインコースト、アデレード、パースなど、時間とお金の許す限り旅行を楽しみました。おすすめはアデレードです。都会すぎず、かといって退屈しない街です。綺麗な海が近くにあり、歩くだけでも楽しめました。近くのパブでフィッシュアンドチップスを食べながら、フットボール観戦をしたのも良い思い出です。(決勝戦アデレード対リッチモンドで、私はリッチモンドを応援していたので周りの目が怖かったです。それだけオーストラリア人のフットボール熱はすごいです。)メルボルンは、私が住んでいる街から電車で3時間半かかりますが、多国籍な美味しいレストランがあり、また面白い場所もたくさんあるので、たまに土日のお休みを使って訪れていました。

長期休みは時間がたくさんあるので、ぜひ旅行を目一杯楽しんでください。

II. A T Jの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

学校で披露した浦島太郎劇です。私が脚本、構成、演技指導、ダンス指導、セット、コスチューム、音楽、全て担当し、とにかく何事にも時間がかかって大変でした。しかし、生徒のみんなが毎日一生懸命練習しているのを見てみると、私も生徒たちのためにできることを精一杯やろう！サポートしよう！と奮い立たされ、みんなで力を合わせて最後には素晴らしい劇を上演することができました。子供の才能や、パワーをひしひしと感じたと同時に、生徒との距離も縮まり、本当にやりきってよかったなと思いました。そして来週、私の最後の全校集会で20人の生徒とミュージカルサウンドオブミュージックの一場面を上演する予定です。毎日の練習は大変ですが、今の時間は本当に貴重で尊いものだと思います。普通には経験できないことをさせてもらっていて、色んなことを学んでいます。当たり前ではないこの環境に感謝して、残りの練習も、一分一秒を大切に一生懸命過ごしたいです。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

今の学校には600人以上の生徒がいます。たくさん生徒と関わっていくなかで、中には考えられないような家庭環境で生活している子もいるのだと知りました。先生たちによるとその数は増えてきているそうです。日本でも同じようなことが起こっていると思いますが、いくらアシスタントとはいえ、初めて教育の現場に立って実際に目の当たりにすると、辛かったです。生徒が深刻な悩みを私に心開いて相談してくれた時も、私は担任の先生に報告することしかできず、何も変わりませんでした。一人の先生は私にこう言いました。すごく悲しいことだけれど、私たちには彼らの家庭を変えることはできない。学校での安全を守ってあげることしかできない。その言葉を聞いて私は先生という仕事から色々なことを考えました。今私ができることは生徒一人一人と正面から向き合って、一生懸命学校生活を送るしかないと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本の学校では、掃除の時間がありますが、オーストラリアの学校にはありません。それもあってか、生徒は授業で使ったものの片付けがすごく苦手です。色んな所に鉛筆や消しゴム、ゴミが落ちているのを見て最初はビックリして、どうにかしなければいけないと思いました。

授業態度も日本の生徒とは違うと思います。学校によって差があると思いますが、日本の学校より自由な感じで、授業中のおしゃべりがとても多いです。先生もよく注意しますが、聞く耳をもとうとしない子もいます。反面、生徒がすごく積極的でたくさん手を上げて発表してくれるのはとても嬉しいことです。授業を手伝っていてとてもやりがいを感じ

ます。

Ⅲ A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン

持っていきましたが私はあまり使いませんでした。学校に私が見えるパソコンがあったのでそれをよく使っていました。自分のパソコンを使っているA T J参加者もいたので学校によっては必須になると思います。事前に確認することをおすすめします。

動きやすい服

私の学校には先生の服の規定がほとんどなく基本的に何を着てもいいのですが、生徒と動き回ったり、床に座ったり立ったり、とにかくよく動くので、ズボンスタイルの動きやすい服は重宝しました。近くに服屋さんはたくさんあるので現地で購入するのも可能です。

薬

風邪薬や痛み止めなど薬類は日本からなるべく持ってくることをおすすめします。もちろん薬局はありますが、初めて服用するものはどうしても不安になってしまうので、いつも飲んでいるものがあれば安心です。

日本のお土産

日本の文房具や、100円均一で買える面白いおもちゃは、授業でも紹介して生徒がとても興味を持ったので、いくつか持っていったらいいかもしれません。私は実際に、ロケット鉛筆、紙風船、ペティペトと呼ばれる眼鏡ふき(てのひらでポンポンすると、鶴や富士山やペンギンの形になります。これが一番人気でした)、きれいに包装されたお菓子、日本のシール、メモ帳、折り紙などを持っていきました。ぜひ参考にしてみてください。

日本の調味料

私は日本食を作る機会がたくさんありました。大抵のものはアジアスーパーで揃うのですが、白だしと片栗粉は手に入らなかったのが日本から送ってもらい、今頻繁に使っています。醤油、みりん、酒などは簡単に買えます。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

私は追加募集で考える間もなく急いでA T Jに参加することを決めたのですが、今、ここにきて本当に良かったと思っています。オーストラリアの子供たちとたくさんの時間を共にすること、現地の学校の先生と友達になること、新しい家族のような存在ができるこ

と、今は当たり前の生活になっていますが、普通では経験できない事をさせてもらっています。ここは私の第二の故郷になり、必ずまた帰ってきたいと思うくらい、大切な場所になりました。また、この学校に来てたくさんの経験をし、色々なことを感じ、少しは成長できたかなと思います。大学卒業という大切な時期に、一年間冒険ができたことに感謝し、これからもこの経験を生かして冒険しながら生きていきたいです。もしも就職の事で悩んだり、英語教育や日本語教育に興味があったりするなら、一年間A T Jとして活動してみるのもいいかもしれません。将来を変える、新しい発見や気づきがたくさんあると思います。

IV. 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

今の所は日本に帰って英語の先生になりたいと思っています。そのためにオーストラリアの小学校でたくさん資料を集めている最中です。

② 将来の夢

まだ分からないのですが、自分の英語教室を開き、子供と世界の色々な国の事を英語で勉強できたらいいなと思っています。

2017年度 ATJ体験記

氏名： A. F.

卒業年月： 2016年4月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Rosebud Secondary College

ATJの期間： 2017年6月16日～2017年12月24日（更新：無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）
日本語教育に関する本を2冊程読みました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）
ビクトリア政府から連絡を取りながら必要書類を集めました。ビザ取得まで2ヶ月ほどかかったと思います。

③ ATJとして経験した具体的業務

- ・12年生と一対一で1人1コマ個人レッスン
- ・7年生～12年生の授業のヘルプ
- ・個人レッスンで使用する部屋のセットアップ
- ・資料づくり

④ ATJ以外の活動
特になし

⑤ ホームステイ
スーパバイザーの先生の配慮で6ヶ月の間に4家庭にステイさせてもらいました。短期間での移動は大変でしたが、色々な家庭を見ることができて面白かったです。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと
学校の近くで銃撃事件があったり、更生施設があったりしたので暗くなってからは家から出ない方が無難です。

⑦ 長期休暇の過ごし方
6月の休みはホストファミリーとフィリップアイランドに行きました。ペンギンを見た

り、海岸を散歩したりしました。ペリカンの大軍の餌付けを間近で見ることができました。10月の3連休を延長してもらって5日間タスマニアに単身でバックパック旅行をしました。レンタカーを借りずに東海岸の観光地を周るバスツアーに1泊2日で参加しました。お気に入りの場所は Bay of Fires です。石の色が赤やオレンジ色でとても綺麗でした。クリスマス後の夏休みは母がオーストラリアに遊びに来ました。一緒にブリスベンにいたり、メルボルンを観光したりしました。母が帰国した後はメルボルンで友人とシェアハウスをしてナイトマーケットに行ったり、天気のいい日は海に行ったりしました。日本帰国前1週間はシドニーに行きました。日本で出会ったオーストラリア人の親友と Circulat Quey からフェリーに乗って Bondi ビーチに行ったことがいい思い出です。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しんで日本語学習をする手伝いをできたことです。最初は全くやる気がなかった生徒も1対1で指導したり、授業で顔を合わせたりしていくうちに少しずつ授業に参加するようになりました。7・8年生は特に人数が多いので先生1人ではなかなか全員に目が届きません。しかし私が派遣された学校は9年生から日本語が選択科目になるので、ハイスクール最初の2年間は今後継続して勉強してもらうための大切な2年間です。” You are my favorite assistant teacher!” と言われた時はとても嬉しかったです。

10年生が3人しかいなかったなので、11年生と同じクラスで授業しました。先生は11年生につきっきりだったので、10年生の授業はほとんど私が任されました。はじめは教科書に沿ってタスクをこなしていったのですが、面白くなかったので自分で資料を作ったり、授業づくりをしたりして臨むようになりました。それから生徒が授業を楽しんでくれるようになって、やる気もぐんとアップしたことが実感できました。私がしたことに対して生徒がレスポンスしてくれることがとても嬉しかったです。

先生ではなくアシスタントとして授業に参加するいい点は、生徒と友達に近い距離感で話ができることです。生徒を注意したり叱ったりするのは先生がやって下さるので、アシスタントとしてはカジュアルに話しながら日本語や日本の文化の面白さを伝えることができるといいですね。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

家の周りに友達ができなかったことです。田舎だったので同じくらいの年齢の人と出会う機会がほとんどありませんでした。今年はインドネシアからのアシスタントもいなかったなので同じ境遇を共有する人が近くにいませんでした。ATJプログラムはビクトリア州の様々な地域に派遣されるので、せめて近い人同士でシェアハウスや一緒にホームステイをできる環境があればいいと思います。

他のアシスタントとも話しましたが、派遣先にアシスタントを受け入れる体制が整っていないケースが多かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

皿洗いをする時に洗剤がついたまますすがずにお皿を乾かすことです。洗剤の味はしないか、体に悪くないかホストマザーに聞くと「誰も死んでないから大丈夫！」と言っていました。

Ⅲ A T J参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）
パソコンは必須でした。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

とてもいい経験になると思います。特に田舎に派遣される皆さんは趣味があるといいですね！学校からの課題も多くなかったので、3時に学校が終わったから暇だなあと思うことがよくありました。私は友人のアシスタントとウクレレを始めました。

Ⅳ 進路

① 現時点での進路（A T Jの継続、就職先など）

A T Jに参加する前の勤務先に戻って京都で働いています。

② 将来の夢

ゲストハウスやホステルをオープンすることです。

2017年度 ATJ体験記

氏名： M. S.

卒業年月： 2017年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： Fairhills high school

ATJの期間： 2017年4月18日 ~ 2018年3月29日（更新： 無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

大学で、教職や日本語教育に関連する講義を履修していたことは非常に役に立ちました。特に高校2年生、3年生を教える時は、難しい文法のどの部分に躓きやすいのかを把握していたので、教えやすかったです。私の生まれ故郷である京都を紹介できるようにしていたのも役に立ったと思います。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

ビザの手続きは自分で行いました。50問以上ある質問に答えたり、様々な資料（海外保険証明書や残高証明書など）を揃えたりしなければいけないので、早めにするをおすすめします。私は1月初めから中旬くらいにかけて手続きをしたのですが、他の大学からのATJ参加者のみなさんは年内に終わらせていたそうです。

③ ATJとして経験した具体的業務

中学1年生から高校3年生までの授業に参加し、机間指導を行ったり、文化の授業では私が中心となって教えたりすることもありました。また、高校2年生と3年生はVCEと呼ばれ、1つの授業として行うので、日本語の先生が高校3年生を教え、私が高校2年生を教えることも多々ありました。その他にも、日本語の先生が学校を休まれた時には、代行の先生が来てくださいますが、必ずしも日本語の先生とは限らないので、日本語の先生ではない時は、私がメインで教えていました。授業外では、お昼休みに高校2年生、3年生と1対1で会話練習をしていました。また、週に1回小学校にも行っていたのですが、小学校でも同じように教室内を巡回し、困っている生徒を助けたり、日本語の先生と共に教えたりしました。

④ ATJ以外の活動

土日は他のATJ参加者とシティに行って遊んだり、ホストファミリーと出かけたりしました。山の中に住んでいたため、自分ひとりでシティに行く時は、電車やバスの時間を

いちいち気にしなければいけなかったので、少し面倒くさくて大変でした。また、毎週月曜日の放課後は、学校の先生たちと近くにある 1000 steps という場所に行き、一緒に運動をしたり、ヨガをしたりしていました。

⑤ ホームステイ

初めのホームステイ先は2か月くらいしかおれず、6月中旬から7月中旬までの約1か月だけシェアハウスに住みました。シェアハウスはホームステイとは違い、全て自分で行わなければいけないので大変でしたが、その分自由に過ごせるので気が楽ではありました。また、シェアメイト達もとても優しく、一緒に料理をしたり、休日に出かけたりしました。7月中旬からは再びホームステイを始めましたが、学校の生徒や先生の家ではなかったの、学校からとても遠く、毎日片道1.5時間から2時間くらいかけてバスで通っていました。私はオーストラリアで知り合った友だちの家だったので我慢できましたが、ホームステイはできるだけ学校から近いところにしてもらうことをお勧めします。また、文化も習慣も全く違う人たちと暮らすので、当然自分のやり方と違ったり、気を使ったり、性格上合わないこともあります。どうしても我慢できない時は、あまり悩みすぎず、遠慮せずにスーパーバイザーの先生に相談してホストファミリーを変えてもらってもいいと思います。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

けがをした場合や、体の異変に気付いた場合は、どんなに小さなことでもホストファミリーやスーパーバイザーの先生に言った方がいいと思います。私は手首を痛めたのですが、病院の行き方が分からなかったのと、自分の怪我を勝手に軽く見ていたことで、病院に行くのが遅くなり、痛みが少しのこってしまうことになってしまいました。特に病院の行き方は日本と全く違うので、周りの現地の方に相談しましょう。治安は比較的良い国だと思います。ですので、私は特に気にならなかったのですが、夜暗くに一人歩くことや、バーなど一般のお酒の場に行った時は、自分の飲み物から目を離してはいけない（ドラッグを入れられる可能性がある）と何度もホストファミリーや現地の友人に言われました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

オーストラリア国内を旅行したり、ビクトリア州内を旅行したりしました。また、私のホストファミリーはキャンプが好きだったので、キャンプに何回も行きました。オーストラリアは場所によって見える景色が全く違うので、いろいろな所に旅行することをお勧めします。また、日本ではなかなか経験できないような本格的なキャンプができるので、自然が好きな方は、機会があればぜひ行ってみてください。年末年始には日本の家族がオーストラリアに来たので、一緒にシティ観光をしたり、メルボルン郊外の様々な所に行ったりしました。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

中学1年生と2年生の授業で巻きずしを一緒に作ったことです。オーストラリアでは、お寿司といえば巻きずしで、日常的に食べられています。しかし、作ったことがある生徒はほとんどいなく、私たち日本人にとっては簡単そうな作業でも、彼らにとってはとても難しく感じ、教えるのに少し苦労しましたが、新たな発見がたくさんあり、普段の授業とは全く違うので、生徒の新たな一面も見ることができました。また、授業とは関係ないのですが、スクールキャンプでウルルやフィリップアイランドに行くことができたのもとても良い思い出です。メルボルンとは全く違った景色を見ることができたとともに、生徒達とたくさん話すことができたので、より仲良くなることができました。

② 辛かったこと、最も苦労したこと

英語で伝えたいことがうまく伝えられなかったり、何て言えばいいのかわからなかったりした時は非常に苦労しました。また、日本語の先生が休まれた時は、私がメインになって教えていたのですが、クラスをうまくまとめられなかったり、メリハリのある授業ができなかったりして苦労しました。私生活では、公共交通機関が充実していないので、どこに行くのも時間がかかり、時間を計算して行動するのが大変でした。バスが来なかったり、予定より早く行ってしまったりして、30分～1時間くらいバス停で待たされたこともありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

学校のシステムやルールが全く違うことです。日本ほど厳しくないため、どこまで注意していいのかわからない時がありました。また、生活面では、洗濯物を週に1回しか回さないなので、時々着る服を考えなければいけない時がありました。さらに、オーストラリアは水がとても高く、シャワー時間を常に気にしなければいけなかったり、ほとんどのオーストラリア人は2、3日に1回しか頭を洗わないので、毎日洗っていることを申し訳なく感じたりしました。他にも交通面では、郊外に住んでいたこともあり、週末は1時間に1本しかバスがなかったり、夜早くに終バスが終わってしまったりするので、シティに遊びに行った時など、バスや電車の時間を常に気にしなければいけませんでした。

Ⅲ. A T J参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

私は自分のパソコンを使っていましたが、学校から貸してもらえました。頭痛薬や風邪薬はオーストラリアにもありますが、どれを選べばいいのかわからなかったのも、日本から持ってくることをお勧めします。日本の珍しいお菓子（駄菓子）や、シール、スタンプなども生徒は喜んでくれたので、持っていくといいと思います。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

日本の学校とシステムも授業の進め方も生徒の様子も全く違うので、カルチャーショックは大きいと思います。生徒とどうやって接したらいいのかわからなかったり、伝えたいことがうまく伝えられなかったりして、大変な時もあると思いますが、外国で働くことに挑戦している時点ですごいと思うので、負けずに楽しんでください！絶対来てよかったと思えるし、いい経験になると思います。それから、日本人は遠慮しがちだったり、気を使って考えすぎたりする時があると思うのですが、嫌な時は嫌とはっきり言いましょう！オーストラリア人はもっと自由です！